

### 宇宙通信株式会社 田村 奈々

**入**社するまでまったく宇宙とは関係のない世界にいた私が入社した途端に、衛星・ロケット・アンテナ・軌道・食運用・・・といった聞き慣れない言葉が飛び交う世界に入ることになったのが、約6年前です。初めは技術部に所属し、そこで4年間、衛星調達プロジェクトの事務局業務を担当しました。その後、広報を2年ほど担当し、現在も引き続き広報業務を担当しています。

宇宙通信が保有する衛星（“スーパーバード”）は、現在4機軌道上で活躍しています。これらの衛星は、もちろん肉眼で見ることができません。車などのように修理することも出来ないで、地上ですべて完璧に作り終えてから、はるか36,000kmの宇宙空間へと届けられます。

この緊張感溢れる仕事を担当するプログラムに、幸運なことに私は、最初から参加することができました。

調達のプロジェクトには、衛星・ロケット・地上設備・通信・周波数調整など、それぞれの分野のプロフェッショナルな人達が集まり、一つの衛星を作り上げていきます。調達の期間は何ヶ月レベルではなく、数年かかるので、忍耐力のいる仕事です。

そのようなプロフェッショナルな皆さんの仕事が滞りなく進むように勤めるのが私の役目でした。いくつか当時の私の仕事を紹介したいと思います。

私が最初に乗り越えなくてはならなかったのは、海外メーカーとのやりとりです。海外経験といえば卒業旅行で行ったグアムくらいの私にとって、英語を使った仕事は語学学校に通わざるをえない状況でした。とりあえず日々の電話だけでも取れるようになりたいと、決まった言い回しを、何度も呪文のように唱えて覚えるよう努力しました。それでも想定外の電話が多く、頭が真っ白になりうまく対応できないことが多々ありました。時差の関係で朝早くかかってくる電話をビクビクしながら取るという日々が続きました。時には海外メーカーの方が会社に訪れる場合もあり、これにもいつも緊張し、動揺していました。決して皆さん怖い方々だったわけではなく、笑顔で気さくに話しかけてくれるのに、いつも薄笑いを浮かべるだけで、うまく答えられずいつも悔しい思いをしていました。

そのような緊張の毎日を過ごしていた私も調達プロジェクトが終わる頃には、お別れするのが辛いと涙するくらいに海外メーカーの方と親しくなっていました。ただ、英語力は今も昔も同じレベルで、あまり成長していないと思います。慣れてしまえば言葉が通じなくてもコミュニケーションが取れるということが次第に分かってきて、徐々に恐怖心がなくなり親しくなることができたのだと思います。



打上げロケットの模型と一緒に。

私の仕事の中には、海外出張の手配や、海外駐在対応がありました。これらはとても勉強になり、それでいて楽しい仕事でした。手配するのは大抵一度に2～3名くらいで、出張期間は場合によっては2週間くらいかかる時もあります。一つ手配が終わったかと思えばまた次の出張手配をするという、常に出張の準備をしているような状況だったので、飛行機の時刻表を覚えてしまうほどでした。チケットの手配はもちろん、レンタカー・ホテルの手配すべてを担当します。衛星作成の進み具合によっては、日程はすぐに変更になるので、発券のタイミングを計るなど、色々な可能性を考えながら柔軟に対応できるように心がけました。空港からホテルまでの経路を検索することもあったので、地理的にも詳しくなって、一度も行った事がないのに、いつかそこへ旅行することがあれば迷うことはないのではと思うほどでした。

海外駐在対応では、ほぼ毎日電話やメールでやりとりをし、必要な書類の準備をして送付したり、家賃・光熱費の振込み、立替経費精算などを毎月行い、年に一回は税金を支払う為の書類の準備をしました。一番興味深かったのは、ガス代や電気代の請求書の解説でした。海外旅行するだけでは見ることでできない光熱費の請求書はとても珍しいものでした。海外で生活したことがないのにしたような気分になり、貴重な体験をさせてもらいました。

この仕事の中で、一つだけ不満があったとすれば、日本に一人でいることが多かったことです。今まで書いてきたとおり、出張ばかりしていたので、時には私以外全員不在という状況がヶ月続くこともありました。その間、会社には始業時間より30分ほど前には着いているように心がけ、皆さんにとっては一日の仕事を終えて最後の締めとしての電話、私にとってはこれから一日が始まる時の電話をしました。その電話で明日までにやるべき仕事の指示を受け、その仕事を昼間黙々と取り組むという日々でした。一人でもきちんとやらなくては、という気持ちと心細さの募る日々でした。お昼を過ぎると大体皆さん寝てしまうので、「おやすみなさい。」と言って電話を切るたび、羨ましいなと思いました。もちろん皆さんは私が寝ている間働いていたわけですが・・・。



大迫力のアンテナ。  
(スーパーバード茨城ネットワーク管制センター)

は、衛星に関する知識のない私に対して、忙しい中いやな顔ひとつせずにご助けてくださったプロジェクトの皆さんがいたからこそと思っています。

調達の進捗状況を社内へ報告するという仕事もありました。これは社内LANでしか見られないホームページを作ることで対応していました。このホームページの中では、プロジェクトメンバーの紹介をはじめ、衛星の調達状況の報告、週報の掲載等、内容の固いものから、現地駐在者からの観光情報や、恥ずかしながら自分の日記なども掲載させてもらいました。営業はお客様へよりよいサービスを提供することが仕事、運用は衛星を安全に運用することが仕事、それぞれになくてならない衛星の進捗状況を少しでも把握してもらえればという願いから、マネージャーの指示もあり、作成を開始しました。社内の認知度はそこそこあり、役に立てていたのではないかと思います。作成にあたって

さまざまな調達の仕事すべてを通して私がいつも思っていたのは、皆さんの忍耐強さだったと思います。そしてそれは私にもいい意味で伝染しました。何事もあきらめずじっくりと取り組むこと、それが大事なのだと行動で皆さんに教えられていた気がします。

さて、そんな重要な経験をたくさんさせて頂いた技術部を2年前に卒業し、現在は広報の仕事を担当しております。ニュースリリースの発信、情報誌の作成やホームページ管理が主です。

現在弊社では、緊急地震速報の衛星配信サービス“Safety BIRD”、災害に強い“Esbird”サービス、都市と地方をつなぐ“V-DRIVE110セミナー中継”サービス、デジタルデバインド地域をカバーする“スーパーバードIP-VSAT”サービス動画配信の“ヒットポップス”サービスなど、様々な事業を展開しています。

広報の仕事を通して、衛星が様々な方法で活用できるということを、改めて実感する毎日です。衛星のシステムは理解するのが難しいですが、分からないことがあれば質問して、少しでも多くのお客様にサービスの魅力を伝えたいと思います。

いつかみんなで作り上げたスーパーバードを気軽に見に行けるような時代が来るのを心待ちにしつつ、それまでは時々空を見上げては、頑張ってくれるように祈って過ごしたいと思います。



年に数回発行される情報誌  
“SUPERBIRD NEWS “